さけます関係研究開発等推進特別部会

奈良（なら）　和俊（かずとし）（さけますセンター 業務推進部・現水産総合研究センター 経営企画部）

はじめに

本特別部会は，さけます類に関する研究開発等について，さけますセンターと関係行政・試験研究機関及び増殖団体等との情報交換を密にし，ニーズを把握して，相互の連携強化を図ることにより，さけます類に関する総合的な研究開発等を効率的かつ効果的に推進することを目的に設置しています．本特別部会には，研究開発の計画・成果等に関する情報交換と連携研究の可能性等を検討する「さけます研究部会」と，研究開発等の成果普及・情報交換とニーズの把握を行う「さけます成果普及部会」を設けています．平成 20 年 8 月 1 日札幌市において，午前を中心に水産庁，関係道県の行政・試験研究機関，水産総合研究センター内関係部署等の 19 機関 72 名参加の下に「さけます研究部会」を，午後からは増殖団体，漁業団体等も加えて 65 機関 203 名参加の下に「さけます成果普及部会」を開催しました．

さけます研究部会

さけますセンター福田所長の挨拶，水産庁増殖推進部研究指導課の橋本研究管理官から研究情勢等の情報を頂いた後，9 道県の試験研究機関及び水産総合研究センターから，平成 20 年度さけます関連調査研究計画について情報交換しました．研究発表として，さけますセンターから受託研究の「外来サケ科魚類及び遺伝子組換えサケ科魚類導入時に行うリスク評価マニュアルの作成」，交付金プロジェクト研究の「生態系アプローチによる資源管理へ向けた基礎的研究」の 2 課題を発表しました．また，平成 20 年度から実施する農林水産技術会議プロジェクト研究「地球温暖化が日本系サケ資源に及ぼす影響の評価」についても研究目的や細部計画の内容を紹介しました．午後からは地球温暖化関連の情報交換を行い，まず水産総合研究センター業務企画部から平成 20 年 7 月に策定された「水産総合研究センター地球温暖化対策研究戦略」について，また，日本海区水産研究所から日本海の海況を数値モデルで予測する「日本海海況予測システム JADE」について情報を提供しました．次に，さけますに関連する温暖化の影響等については，その懸念はあるものの具体的な兆候はほとんど見られていないとの状況にあり，今後の対策に関しては，各機関とも予算が厳しい中で新たな課題立ては困難な状況にあるため，各機関が実施しているモニタリングから得られた関連情報を共有する必要があるとの共通認識に立ち，今後，さけますセンターが当該情報の収集・共有方法について提示することとしました．

さけます研究部会会議風景．

さけます成果普及部会

水産総合研究センター経営企画部の川村部長の挨拶に続き，来賓を代表して水産庁増殖推進部栽培養殖課の大角課長から挨拶を頂きました．次

来賓挨拶：水産庁栽培養殖課大角課長．

主催者挨拶：水研セ経営企画部川村部長．

に関係機関からさけます関連の情報提供を行いました．北海道区水産研究所は「北太平洋におけるサケ資源と海洋環境」と題し 2008 年 6～7 月に中部北太平洋及びベーリング海で実施されたさけますのモニタリングの調査結果について，日本海区水産研究所は「日本海に回帰するサケの旅」と題し本州日本海の河川に回帰するサケの回遊経路や地域におけるブランドサケの利用状況等について，中央水産研究所は「欧州におけるサケ市場」と題しＥＵ諸国のサケの需要や市場規模について，また，「秋さけの遊漁料徴収の論理」と題し北海道におけるさけ遊漁の実態や海面における遊漁料徴収施策に係わる問題点等について報告しました．さけますセンターは「これまでの耳石温度標識魚から得られた主な知見」と題し沿岸及び河川で再捕されたサケ耳石温度標識魚の解析結果から個体群毎の稚魚の移動経路，親魚の産卵時期と回帰時期との関係等について，また，「日本系サケの資源構造」と題し平成 19 年度におけるサケの区域別の回帰数や年齢組成結果及び本年の全体的な回帰見込み数について報告しました．

最後に，本特別部会及びさけますセンター業務に対する要望及び意見交換の場を設けました．事前に，岩手県水産技術センター，宮城県農林水産部，石川県水産総合研究センターから，①予算も厳しいため連携して調査研究できる枠組みの確立，②各機関のサケ標識放流関連データ等の一括管理，③温暖化対策に向けた海洋環境調査の充実，サケ親魚の DNA 解析についての要望が出されており，さけますセンター各担当部署から，①さけます関連で関係道県と農林水産技術会議競争的資金 1 件，交付金プロ研 2 件を実施中であり，今後も「さけます研究部会」の活用も図り連携を強めること，②各機関実施の標識放流計画及び問い合わせ先の一覧を当方が取り纏め情報提供すること，③本州のサケについても遺伝的構造を調査中であり，石川県分も標本採取し解析中であること等の回答を行いました．また，会場では，（社）北海道さけ・ます増殖事業協会，山形県鮭人工孵化事業連合会から，①日本海側のサケ資源低迷の要因と今後の取組策，②本州日本海のサケについて，耳石温度標識放流調査の拡大の要望が出されました．さけますセンター各担当部署から，①考えられるサケ資源の減少要因を説明し，新たな取組として，大河川の上流域の生産力を利用した放流手法の検討及び天然産卵をも活用した再生産管理方策の検討を行うこと，②本州日本海側の効果的な放流時期とサイズを把握することを目的に，耳石温度標識放流調査を開始すること等の回答を行いました．

アンケート結果

本特別部会の参加者を対象に，今後の会議をより充実させるためのアンケート調査を実施しました．質問「会議内容は業務に役立つ内容でしたか」に対し，「はい」51%，「まあまあ」44%，「いいえ」5%で，「配付資料は役立つ内容でしたか」に対し，「はい」51%，「まあまあ」48%，「いいえ」1%の回答でした．増殖団体，漁業団体からの要望・意見としては，地球温暖化とさけます増殖に関する研究や日本海におけるサケの回帰率向上に関する研究等の要望が出ていました．

おわりに

参加者及びアンケートの意見等を踏まえ，次回以降も多くの関係機関の参加の下に，情報交換及び十分な議論ができるよう改善を図りたいと考えています．また，「さけます研究部会」においても話題となりましたが，地球温暖化について，モニタリング情報の利活用を推進できる体制づくりを進めたいと考えています．

さけます成果普及部会会議風景．

要望・意見交換の場面．